

アコヤガイへい死対策に向けた飼育試験調査結果

(調査日：令和3年10月25日)

愛媛県農林水産研究所水産研究センター

1 目的

- アコヤガイの大量へい死対策として、高水温期に母貝養殖の実態がない海域へ避難させることによる、リスク分散の有効性について検討する。

2 試験区の設定

- 試験地点は、宇和海北部の西予市2地点、宇和島市の2地点とし、比較のため瀬戸内海の1地点（水産研究センター栽培資源研究所：伊予市）を含めた。
- 各地点に1～2系統の日中交雑貝を垂下し、地点間、系統間で比較を行った。

3 調査結果の概要

- 調査した地点すべてで、へい死は見られていない。
- 北部地区において、外套膜の萎縮（0-5%）や貝殻真珠層の褐変（0-25%）が確認された。
- 瀬戸内海では、外套膜の萎縮、貝殻真珠層の褐変ともに確認されなかった。

漁場	地区	地点数	系統	系統数	外套膜萎縮個体 出現率	褐変個体 出現率	へい死率
北部	西予市	2	日中交雑貝	4	0-5%	0-10%	0%
	宇和島市	2	日中交雑貝	4	0%	0-25%	0%
瀬戸内海	伊予市	1	日中交雑貝	1	0%	0%	0%

4 調査方法

- 水産研究センター職員が各漁場を回り、貝の状態、へい死率を確認するとともに、地点及び貝の系統毎に20個体を水産研究センターに持帰り、貝殻及び貝肉の状態を調査。